

だっこするよ

2026年2月



社会福祉法人茂原高師保育園
北区立赤羽台保育園
園長 奥戸 昌子

内側から育つ力を信じて

立春を迎え、園庭には、ぐんぐんさんたちが卒業するどんどんさんたちへと植えたチューリップが寒い冬を耐えて芽を出しています。土の下、目に見えないところで、根を張り、力を蓄え、最も寒い時期に芽吹く姿は、命がもつ時間の豊かさを教えてくれます。

生命の育ちは、急がされるものではなく、それぞれの内側のリズムに支えられて立ち上がってくるものなのだと自然は語りかけてくれているようです。

自然探究の園庭では、子どもたちが虫を探し、砂場でごっこ遊びを広げ、築山を登ったり降りたりしながら、身体と思考を同時に働かせています。大人が先回りして教えなくても、子どもたちは自分の「やってみたい」から動き出し、試し、失敗し、また貪欲に挑戦していきます。

学びは、教え込まれるものではなく、出会いへの応答として生まれる。教育とはその応答が生まれる条件を整えること…」尊敬する苫野一徳氏（哲学者・教育学者・熊本大学准教授）の言葉です。そのことを、子どもたちは日々の遊びの中で体現しています。

多様な応答が生まれる条件を整える…本園では、2023年度から異年齢保育へ移行しました。年齢や発育の違いは、固定的な役割を任せたり、年下の子へのお世話をお願いするためではなく、多様な他者と出会うための環境です。異年齢保育に移行して

から以上児組の皆なは、その昼間のおうちクラスが大好きです。年上の子は頼られて、相手の様子を感じ取り、どう関わるかを考えてくれます。年下の子もまた、守られる存在ではなく、意思を伝え、自分の気持ちや欲求を全身で表しながら関係の中にぐいぐいといっていきます。そもそも人間が大好きな子どもたち、遊びも生活も「正解」や「上下」ではなく、人間と人間が対等に意見を言い、相互に育ち合っています。

先日の「異年齢交流日」2歳児さんがグループに分かれて以上児組へ入りました。お茶を飲む時間を買ってもらった新しい水筒が嬉しくて、でも上手に水筒のふたを開けられない2歳児。のびのびさんが、「こうするんだよ」と手伝おうとすると、その子は、水筒を取られると感じてトラブルになりました。そののびのびさんは、様子を見て、自分の水筒を持って来て、開け方を見せてあげたそうです。そのエピソードを担当が嬉しそうに話してくれました。子どもたちは、素敵です。

一人ひとりの内側にある感覚や思いが、皆が安心できる関係の中で引き出され、少しずつ言葉や行動になっていきます。「社会を生きる存在」として育っています。

既にAIと共に生きる時代になりました。知識を集め、速く正解を出すことは、機械が得意とする領域です。だからこそ、人間にとって何が大事なのかと考えると、人間らしさ、その人の感性や思考の力ではないでしょうか。益々、違いを越えて、話し合い、考え、理解しようと積み重ねていく共生の力が大切になると考えます。

園の理念である「こども一人ひとりを大切に こどものための保育園へ」とは…子どもに答えを与えることではなく、子どもが問いを持ち、自分の人生を生きていく力を信じることだと、私たちは考えています。自分たちのコミュニティをどう豊かにしていくのか。遊びから学びへ、興味や関心をどう育てていくのか。その問いに、私たち大人もまた悩み、問い続けながら、保護者の皆さまと共に、子どもたちの最善の利益を提供していきたいと思います。さあ、どんどんさんたちとの最後のチャレンジデーキャンプがあります。とても楽しみです。

写真は、1/28 異年齢保育交流です。わらべうたから始まります。